



春野中だより

「自他共愛」～ 明るく・豊かに・たくましく ～

令和7年度 第3号

令和7年5月30日（金）発行

さいたま市立春野中学校

〒337-0002 見沼区春野 2-2-1

Tel 682-3951 Fax 682-3952

「心理的安全性の確立」

校長 永谷 和俊

風薫る5月もあっという間に過ぎようとしています。この月は、GWの合間の合同引き渡し訓練、各種健診、生徒総会、体育祭と、行事が盛りだくさんでしたが、生徒たちの活躍に感動する日々でした。

例えば、5月18日には吹奏楽部が芝浦工業大学の学園祭「大宮祭」にてステージ発表を行いました。この企画は、2年前から春野中と芝工大が連携を深める一環として取り組んできたもので、吹奏楽部が見事に応えてくれました。生き生きとした3曲ものメドレー演奏は観客を盛り上げ、魅了し、多くの拍手をいただきました。

そして、体育祭では、春野中生らしい素晴らしい姿が随所に見られました。「春トレ」の元気な掛け声、大いに盛り上がったチェッコリー玉入れ、そして学年種目やりりなど、仲間と全力で応援し合い楽しむ姿が見られました。特に大縄跳びでは、苦手な子を囲むように励まし合い、一緒にリズムを取りながら挑む姿など、本校の学校教育目標「自他共愛」を体現していました。3年生を中心に素敵な体育祭となりました。そして、1・2年生がこの素晴らしい3年生に追いつき追い越すことができるのか。これからもとても楽しみです。体育祭を通して学級がギュッとまとまり、よい感じになりました。これからも、誰にとっても居心地のよい学級になるよう、素敵なクラスを作り上げていくことを期待しています。

◇

さて、6月は新しい人間関係も落ち着き、お互いの様子が見えてくる時期であるため、いじめが起きやすい時期とも言われます。先日、ひと足早く、6月のいじめ撲滅月間に向け校長講話を行いました。

講話では、いじめの構造と犯罪性について伝えました。国の調査によると、中学生に多いいじめの形態は「悪口やからかい（60%）」「軽い暴力行為（15%）」「SNS上の中傷（10%）」などです。また、いじめの構造は被害者、加害者、観衆、傍観者に分類されます。そして、傍観者の行動がいじめ撲滅において重要であると再確認しました。いじめは、加害者が悪いのですが、いじめ撲滅の視点で考えると、私たち一人一人が「傍観者にならない」意識を持つことで、いじめのない集団を作り上げられるのです。初期の軽微ないじりやからかいなど、これでよいのかなと思う違和感や雰囲気許していきといじめが常態化し、集団がコントロールを失う可能性があります。「いじめは卑怯な行為であり、決して許される行為ではない」という意識をお互いに高くもち続ける必要があります。

傍観者になることを避けるためには、相談や通報などできることを実践することが大切です。信頼できる大人への相談もよい手段です。ぜひとも、私たちの力でいじめ撲滅を進めてまいりましょう。

◇

ところで、学級など人の集団で大切なことは、誰にとっても居心地のよい状態にすることです。「失敗をしても責められたり、恥ずかしいおもいをしない雰囲気」「何を言っても否定されたり、責められたりしない雰囲気」いわゆる「心理的安全性」が確保されていることです。それは一言で言うと、先日の体育祭の状態です。体育祭では、全員が他者を理解し、愛し、尊重している姿だけでした。まさに絵に描いたかのような「共愛の心」の世界でした。心理的安全性が確保された理想の状態でした。この状態を維持していれば、いじめなんて起きるはずがありません。

くり返しになりますが、6月はいじめが起きやすい時期と言われています。しかし、逆を考えると、この時期にこそ、さらによりよい集団を作っていくチャンスです。

「誰にとっても居心地のよい場所」「心理的安全性の確立がされた場所」を目指して、居心地のよい場所づくりをともに進めてまいりましょう。